

### 3 埼玉県成果発表会

## 令和元年度「学校安全総合支援事業」埼玉県成果発表会

本事業の成果を県内に広め、各学校における学校安全の充実・発展を資する取組をより推進するため、埼玉県成果発表会を開催しました。

■開催日：令和2年1月15日（水） ■会場：さいたま市民会館うらわ

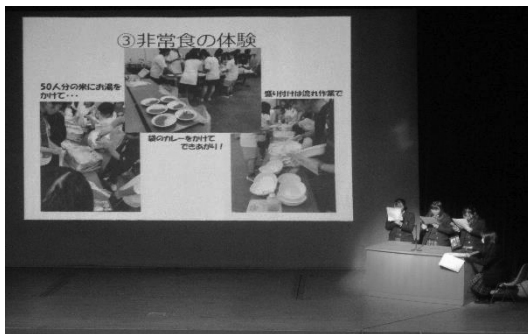
#### 【主な内容】

#### 1 事業説明・成果発表

##### (1) 概要説明（本事業の趣旨及び概要説明）

学校安全総合支援事業埼玉県推進委員会事務局  
（埼玉県教育局県立学校部保健体育課）

##### (2) 成果発表 I



〈川越市教育委員会の取組〉



〈三郷市教育委員会の取組〉

##### (3) 成果発表 II・III



高校生災害ボランティア育成講習会実施報告  
〈代表の県立栗橋北彩高校生徒の報告〉



高校生の交通安全教育推進校実践発表  
〈代表の県立寄居城北高校生徒の発表〉

#### 2 講評

【講評者】 学校安全総合支援事業埼玉県学校安全アドバイザー  
気象庁熊谷地方気象台気象情報官 中村 佳之

#### 3 講演

【演題】 学校安全総合支援事業埼玉県学校安全アドバイザー  
【講師】 慶應義塾大学環境情報学部准教授 大木 聖子

# 講評について

気象庁熊谷地方気象台気象情報官 中村 佳之

## ○台風19号について

大雨特別警報が埼玉県で初めてが発表された。また、台風19号に関する主な防災気象情報として、県と気象台が共同で発表する情報「土砂災害警戒情報」、河川管理者と気象庁が共同で発表する情報「指定河川洪水予報」が出された。

## ○防災気象情報の種類について

特別警報、警報、注意報、気象情報の種類があるが、注意しなければならないのが、「特別警報が発表されない」は、「災害が起きない」ではないということ。特別警報が発表されないからといって安心することは禁物である。気象庁では、特別警報だけでなく、危険度の高まりに応じて警報や注意報も発表している。大雨等において、特別警報の発表を待つことなく、時間を追って段階的に発表される「気象情報」、「注意報」、「警報」や「大雨・洪水警報」の危険度分布等を活用して、早め早めの避難行動を心がけてほしい。

## ○5段階の警戒レベルと防災気象情報について

警戒レベル4の避難勧告や警戒レベル3の段階での避難が大変重要。警戒レベル5になってからの避難では遅い。警戒レベル5では、もうすでに災害が起きているレベルである。

## ○災害から身を守るために

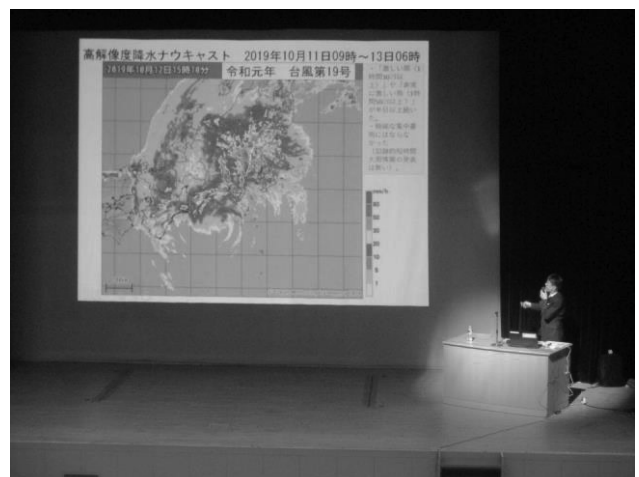
正しい知識を持つこと。ただし、知識だけでは不十分で、自分事として考えるという意識を持つことが大切である。そして、正しい情報の入手すること。

日頃から地域の災害リスクを知ること大切である。ハザードマップ、避難所や避難経路の確認をしておくこと。

## ○1時間の降水量50mm以上の年間発生回数が近年増えてきている。短時間の大雨が増えているということである。気象災害に対する警戒が重要になってくる。

## ○夏の暑さも熱中症につながる気象災害である。

気象台では、埼玉県内どこかで35度以上が予想される場合は埼玉県高温注意情報を出している。



# 講演について

## 「これからの防災教育 ～人を育む・未来をつくる～」

慶應義塾大学環境情報学部 准教授 大木聖子

### この資料について

学校内での防災教育の推進にご使用ください。ウェブ上への露出や二次配布はご遠慮ください。

海辺にある家にひとりである時に大きな地震が起きました。次の行動として、以下のどれが正しいですか？

- ① 机の下でじっとしている
- ② 家族を待つ
- ③ ひとりでも高台に避難する



- ③と答えた児童生徒は、本当にひとりで高台に行けるのか？
- ・大雨だったら？
  - ・家族がもうすぐ帰ってくる時間だったら？
  - ・ペットがいたら？
  - ・・・・

「テストでいうところの正解」として  
③を回答できることと、  
発災時にその行動を取れることは別。

しかも災害は忘れた頃にやってくる：  
授業で知識付与 → 演習なし・テストなし → 忘れた頃に本番

どんなときも、あなたの命が大事だということを伝える。  
家族の命も大事だから家族とも一緒に防災について考えよう、家族と約束をしよう、というところまでやる。

| 発達段階 |     |      |      |      |     |    |
|------|-----|------|------|------|-----|----|
| 特別支援 |     |      |      |      |     |    |
|      | 幼稚園 | 小学・低 | 小学・中 | 小学・高 | 中学校 | 高校 |
| 備える  |     |      | ○    | ◎    | ◎   | ○  |
| 命を守る | ◎   | ◎    | ◎    | ◎    | ○   | ○  |
| つながる |     |      |      | ○    | ◎   | ◎  |

教科の横断以外の切り口からも考える。  
・ 生きる/そなえる/かかわる (岩手県)  
・ 事前/渦中/事後

### 1. よりよい判断のための地震の知識

### 地震大国 日本

世界の震源分布 東京大学 地震研究所

(東大地震研・東京カートグラフィック)  
ここから購入できます：  
[http://net.jmc.or.jp/map\\_aerialphotograph\\_earthquake\\_tcgworld.html](http://net.jmc.or.jp/map_aerialphotograph_earthquake_tcgworld.html)

- ・世界の地震の約10%が日本で起こっている。身体に感じないものを含めると、平均してひと月に約15,000~20,000回！
- ・M7程度の地震（直下型；阪神・淡路大震災や中越地震、熊本地震の規模）は、日本のどこでも起こりうる。
- ・まずは揺れから身を守る。それができて初めて津波や火災から避難できる。

### よりよい判断のために

マグニチュードが大きいほど、  
強く、長く、揺れる

揺れの長さから、だいたいの被害を予測できます。  
■ = 震源域の大きさ

- ・立ってられないくらいの強い揺れ（震度6以上）がどのくらい続いたかで判断。
  - ❖ 10秒くらい → M7（直下型タイプ）
  - ❖ 1分くらい → M8（沿岸なら津波を考慮！）
  - ❖ 3分くらい → M9（巨大津波を考慮！）
- ・マグニチュードの大きさは震源域の大きさを表す
- ・震源が浅い場合：震源域≒被害範囲
- ・震度6以上の分布が県全体から複数県 → M8クラスを想定。沿岸なら津波避難も。

もしかして、こんな時代遅れな訓練  
やっていませんか？



先生が指示してアクション

- ✓ 「地震です。机の下に入りましょう」・・・???
- ✓ 立っている先生より先に、座っている子供たちが揺れに気づきます。
- ✓ そもそも強い揺れでは話すこともできません。

校庭にいるなら中央でしゃがむ

- ✓ 校庭にいる時に地震が発生したら、真ん中に集まってしゃがむ???
- ✓ 強い揺れの渦中に移動するのはほとんど不可能です。

校庭集合を校内放送

- ✓ 停電でも校内放送は使えますか？
- ✓ 耐震性のある校舎を出て、わざわざ校庭に集合する理由は何ですか？

訓練の評価は集合までの時間

- ✓ 「揺れから命を守る」部分の振り返りは？

形骸化した避難訓練では  
現実の地震に対応できません

・突然の強い揺れから、**瞬時に、自分の判断で、命を守る訓練**を行うことが最重要！

- ❖ 津波・火災からの避難は、最初の揺れからケガなく身を守って初めて実現できる。「瞬時に、自分の判断で、命を守るアクション」の訓練を重ねているか？
- ❖ 立って授業をしている教員より、座っている**子供たちのほうが先に揺れに気づく**。先生の判断を待つのは命取り。
- ❖ 震度6を超えるとほとんど歩くこともできません。**校庭にいるならその場で瞬時にダンゴムシ**でいいのでは？校舎のすぐ近くやゴールポストにいる場合なら這ってでも離れるように伝えればいいのでは？

・教員は「**いま、何のリスクから避難しているのか**」を把握すること

- ❖ 校庭に集合するのは校舎が倒壊するから？火災が発生する可能性があるから？心理的な負担軽減のため？教員が集合して議論しやすくするため？
- ❖ 大雨の日に地震が起きたらどうする？／校庭が液状化したらどうする？

放送で始めないなら、どういつか  
訓練を開始するのがいいのでしょうか？

緊急地震速報の報知音を使いましょう。  
全校でやらずに、まずはクラスごとに練習  
しましょう。

ショート訓練ですね。効果的な方法  
やコツはあるのでしょうか？

いきなり訓練せずに、まずはクラスの  
写真を使って危険探しをしてください。  
その後、クラスを2つにわけて、前  
半・後半で互いに見合って振り返りを  
すると効果的です。

ある月や週に、集中的に4回ほどやると効果  
的です。（詳細は『地震防災はじめの一歩』2章を参照）

訓練や発災時には、校庭に集合し  
てはいけないということですか？

いけないわけではありません。集合する  
意義・理由は何なのかを共有して  
おいてください。  
そうしないと、悪天候なのにいつまで  
校庭にいればいいのか、といった疑問に、  
発災時に自力で答えられません。

『警戒宣言／南海トラフ地震臨時情報が発表  
された』という訓練をしていますが、予知  
できるのでしょうか？

非常に困難というのが地震学会の見解です。  
仮にできたとしても、宣言を出せる仕組みが  
あるのは南海トラフだけ。直下型の地震や  
関東・東北の地震には、そもそもそのような  
宣言は存在しません。

## 命を守ってからの対応

- 子供たちと教職員に怪我はないか。
- 校内の火災はないか。
- 校内の（大きな）損壊はないか。
- 停電・断水による影響を確認。
  - 校内放送は使えるのか。非常用電源は何分もつのか。
  - トイレは使用できるのか。仮設トイレは設営できるか。
- 交通機関の停止による影響を確認。
  - どのくらいの保護者が帰宅困難となるのか。
  - 小中の連携はあるのか。
- 地域住民のための避難所開設。
  - どの門から入ってくるのか。
  - どこに集めるのか。
  - どこへ誘導するのか。誰が誘導するのか。
  - 子供たちの待機といかに区別するのか。

## 行うべき防災教育コンテンツ

### まずは揺れから身を守る

- 直下型の地震は日本のどこでも起きる。繰り返さない地震はない。
  - 地震発生は突然。強烈な揺れが（直下型なら）15秒ほど続く。この間に命を守れるかが第一に重要。
  - 「津波避難経路は確認してある」「高台に時間内に行ける」ばかりをやっていないか。最初の揺れから怪我なく身を守れて初めて、二次避難ができる。
- ショート訓練を集中的に繰り返す

### 時間帯によって異なる対応：

- 学校時間中：子供たちを安全に留め置き。
- 下校後の夕方：
  - 地域住民が避難してくる。
  - 子供たちは学校に戻ってくる???
- 夜間：
  - 先生方はご自分とご家族の命を第一に行動してください。
  - 原則として避難所になった学校に駆けつける事になっている。
  - だからこそ、避難所開設と運営は地域住民や中学生・高校生と一緒に平時に取り組んでおく。

→ 避難所シミュレーション（4コマ漫画教材）

## 3. 基本の防災教育コンテンツ例

### 子供たちに必ず教えましょう



- ① だんごむし（机がないとき）
- ✓ 両膝を地面につける
  - ✓ 両手で頭を守る



- ② サル（机があるとき）
- ✓ 脚の真ん中か上の方をつかむ
  - ✓ 4本脚の場合は斜めに
  - ✓ 両膝を地面に



- ③ あらいぐま（火災のとき）
- ✓ ハンカチで鼻と口をおおう
  - ✓ ティッシュはダメ
  - ✓ 袖や裾・襟ぐりでもOK

### 事前の備え

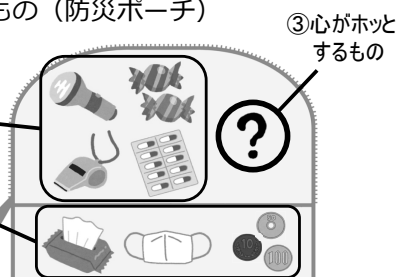
- 家族の命はこれで決まります
  - ❖ 自宅の耐震化：1981年5月31日までに着工した住宅は旧耐震基準。診断を受けてください。
  - ❖ 家具の固定：地震は必ず起きます。家具の固定の仕方を子や孫に教えるために、一緒に固定してください。

—阪神・淡路大震災の犠牲者の88%は住宅の倒壊と家具の固定、つまり自宅が凶器になっています。

- 備蓄は3パターンで考えよう
  - ❖ 常に持ち歩くもの（防災ポーチ）
  - ❖ 自宅に用意しておくもの
  - ❖ 職場に置いておくもの

- 常に持ち歩くもの（防災ポーチ）

- ① 命を守るために絶対に入れておくもの
- ② あると便利なもの



東京堂出版, 2014年2月



「2章 学校の中」で防災教育の授業風景を描写。

教材・マニュアル等はこちらからダウンロード：<http://bosai.sfc.keio.ac.jp/project/short-drill/>

子どもの命を守るために

さまざまな学校で防災教育をしてきて、とても印象に残っている言葉があります。「音楽室に、安全な場所はない」。写真で危険をさがす授業をおこない、ショート訓練をしたときの小学校5年生の男の子のひとことでした。安全な場所がないなんて、この学校の安全対策が悪いと思いますか？ それとも、日本のどんな学校でもきつとそうだから、国の政策が悪いと感じるでしょうか。

私は、そもそも日本に安全・安心はなかったのだと思います。それなのに、世界はさも安全と危険の2種類に区分できるかのように考え、白と黒とで塗り分けてきたと思うのです。私たちは東日本大震災で、安全だといってきた「白」が、実は「黒」だったことを目の当たりにしました。ならば少しでも黒の可能性のあるものは、ぜんぶ黒に塗りつぶしましょうか。そんなことをしたら、世界はきつと真っ黒になるでしょう。

音楽室に安全な場所はないといった男の子に、それでも生き残るためにはどうするのがいいだろう？ と聞くと、こう答えました。「ピアノが動いたら僕は大けがをする。でも木琴なら小さいけがですむ。だから僕は木琴を選んだ」

この子は、音楽室に真っ白はないことを受け止めた上で、少しでも白に近いグレーを自分の判断で選びました。ショート訓練中のわずかな時間に、自分自身で世界をさまざまなグレーに塗り分け、少しでも白に近いグレーを自分で判断して、行動を起こしたのです。

「安全」は白か黒かではなく、常にグレーで塗り分けられるでしょう。そして少しでも白に近いグレーを選ぶ力をつけてあげることこそが、本当の「安心」につながるのではないのでしょうか。

2章のキーワードは「大きい危険と小さい危険」です。低学年はとにかく危険を見つけられるように、中学年からは、大きい危険と小さい危険を区別できるように教えてあげてください。ダンゴムシのポーズでもアウトだったら「大きい危険」です。子どもたちと一緒にさがしてみよう。

#### 4. 「防災小説」

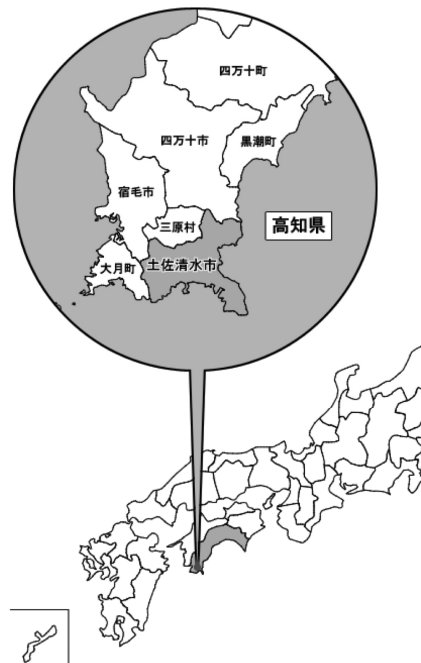
### 高知県土佐清水市での防災小説づくり

#### 土佐清水市とは：

- ・ 高知県西南端、東京からの時間距離がもっとも遠い市のひとつ。
- ・ 65歳以上人口45%（2017年4月時点）。
- ・ 内閣府による南海トラフ巨大地震新想定では30メートル以上の津波高。
- ・ 発表後、住民が絶望してかえって避難行動が抑制されている、との相談が大木にあり、2013年1月から小学校を中心に防災教育を実施。昨年度からは中学校にて実施。
- ・ 市内の中学生は基本的には全員が清水中に通う。

#### 防災小説とは：

- ・ 清水中学校の総合の時間に実施されている防災教育のひとつ。2016年度から始まった。
- ・ 南海地震発生の（近未来の）日付と天気が教員から発表され、**中学生はその時の自分を想像しながら、自分や家族、町がどうなるかを800字程度の小説にする。**
- ・ 全員執筆した後、**地域ごと**にいくつかのグループに分かれて、グループでひとつの小説をブラッシュアップしていく。
- ・ 日付と天気以外に教員から提示される唯一の条件は、「**小説は明るく終えること**」。
- ・ 昨年度初めて中1が作成し、2016年11月3日の文化祭で全校生徒と保護者に向けて発表。
- ・ **本年度は中3が作成し**、清水中・高の全校生徒・保護者・地域の有志に向けて発表する。



2017年度版「防災小説」はこちらからご覧いただけます→



# 清水中学3年生が作った防災小説 (2017年6月5日午前7時40分に南海トラフ巨大地震が発生したシナリオ)

息を切らしながら、もう少しで学校だ。と坂を上がっていたとき、ゴン！と低く大きい音がなった。転んだのだ。だけど、そんなことはどうでもよかった。それは、今起きている地震のことで頭がいっぱいだったからだ。

揺れている間は、ほんとに数十分揺れているような感覚だった。揺れがおさまった。目をつぶっていたので、開けると建物が崩れていた。僕は、家族のことを考えた。どうしよう。どうしよう。どうしよう。…どうしていいかわからず、その場にうずくまり、わあわあさけんでいた。

すると見知らぬ人が「何をしている。そんなところでうずくまってどうする。生き延びるんだ。逃げるぞ！」と低く、力強い声で言ってくれた。その声で自分の中にかかっていたもやが晴れた。

揺れは止まっていたが、おそらく9分ほどで津波が来るだろう。なにか焦げ臭い。道路のほうから声が聞こえた。

助けを呼ぶ声だった。行ってみると、「助けてくれー!!と男性が叫んでいた。車のドアに足を挟んだらしく、急いで救助した。まず、男性に「今助けます。痛いですが我慢してください。」と落ち着いた声で話しかけた。動転しているらしく、返答がおかしい。軽のワゴン車だったから、ドアから引っ張り出すのは簡単だった。それから、肩を貸して体育館まで運んだ。そして連れていく途中、自分が今できることを考えていた。

体育館に着いた。友達や家族、校長先生は無事なのだろう。か。生きてるといい。そんなことを考えている。

体育館入口には、避難者の名前が張り出されていた。本部の仕事をしているのは生徒たちだった。さすが仕事が早いと思った。「ゴォォー」という音が響いた。たぶん津波だろう。

まだここにいる人は少ない。増えてくるといいな。下を向いてブツブツ言っていると、肩に何かがぶつかった。それは押し寄せてくる人たちの肩などだった。うれしい反面、皆焦っているから自分優先の考えにならないか不安だった。

「早くしろやー」と怒鳴りつけてくる人もいた。他にも自分の要求を叫ぶ大人たちがいた。自分は、こんなに慌てることになかったから、すごく大人気ないと思った。自分は、興奮している人達を落ち着かせるために、「落ち着いてください。よく周りの人を見て、発言してください。そうやって自分ばかり主張していたら、いつまで経っても進みませんよ」中には我に返る人もいたが、静まらない人もいた。

自分の無力さを感じて、避難所の運営にあたることにした。運営を仕切っていた友達のりく君から、「料理の手伝いをしてくれ」と言われた。グラウンドで調理をしているということなので、さっそく向かった。作っているのが校長先生だった。ちょうど、作り始めのところだったので、手を洗ってさっそく自分も取り掛かることにした。自分はネギなどを切った。主に、野菜担当だ。家で料理を少し習っていたので、少々できる。

料理をやっているのが主に中学生だから、意思疎通は簡単だったので、ざっと300人くらいできた。校長先生は、まだまだ作る気だった。まるで、地震のことを忘れ、被災者に料理をふるまうことに喜びを感じているようだった。

それから数か月が経った。自分ら中学生は勉強をしつつ復興の手伝いとなっている。

やはり、国の援助の場所は偏っていたが、それでも助けて生きてきた。この町ならすぐに復興でき、活気が取り戻せる。そんな気がした。

## 4. 「防災小説」

### 「防災小説」による効果の解釈

- 防災小説を書く前の土佐清水：
  - 市民から不安や諦めの声 「次の津波で死ぬけん、もういい」
  - 高台に住む中学生の声 「防災教育に付き合わされている」
- なぜ生徒は防災小説を書いた後に変化したのか
  - ナラティブ＝物語ること
    - 防災小説は硬直状態（ドミナントストーリー）を打破するオルタナティブストーリーとしての役割を果たした
    - 現実制約作用により、自らの行動指針を獲得した
- 防災小説の取り組みは、単なる「防災の教育」ではなく、「防災を通じた教育」であり、防災を通して「人を育むこと」
- 防災小説が周囲に与えた影響
  - 地元中学生による物語であることからくる、リアリティの鮮明化
  - 読者に「自分の物語」と感じさせる親近感
  - 「想定外」を「想定内」にする偶有性の獲得
  - 日常のありがたさの再認識
  - 目指すべき自分像や今後の指針の決定
  - 希望のある終わり方をあえて疑う「終わらない対話」

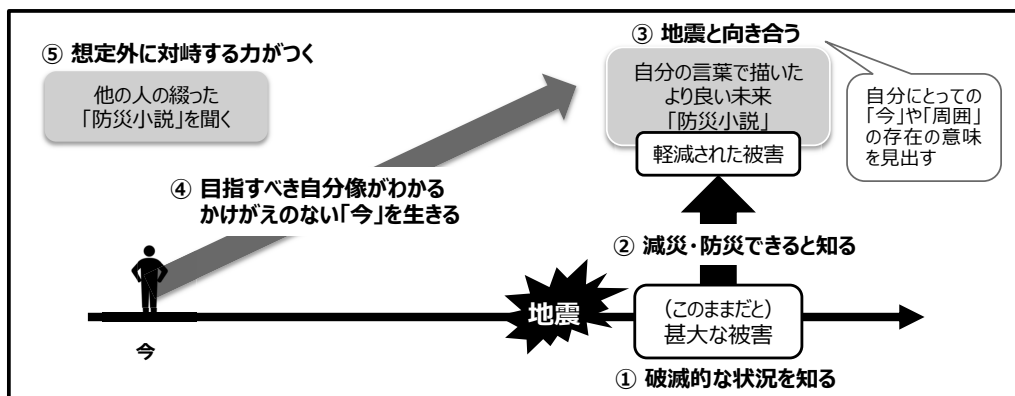
#### ナラティブ・アプローチとは：

- 変えようのない事実や関係も、語りのあり方で意味づけが変わっていくという特徴を用いて、状況の変化を起こす方法。臨床心理学や看護学で活用されている。
- 自らが語った物語に自分自身が制約される「現実制約作用」が機能する。

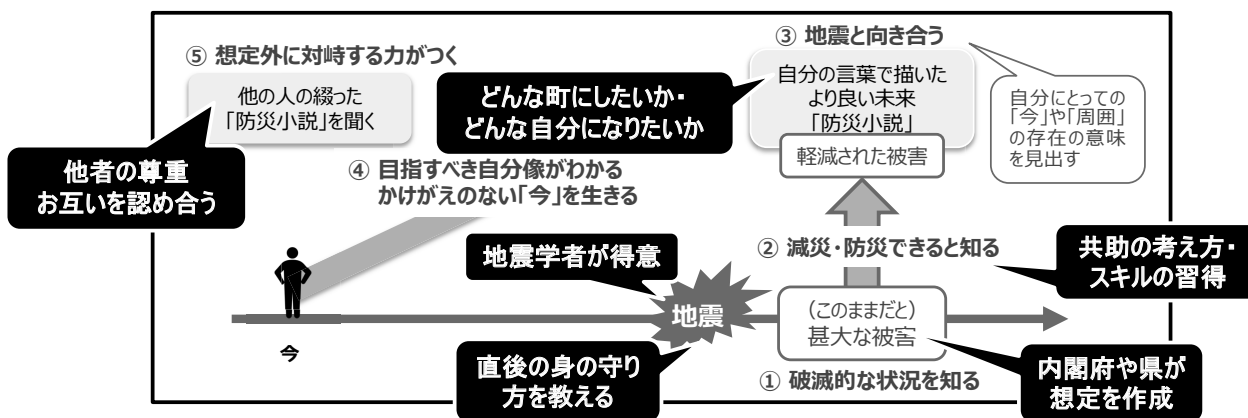
#### ナラティブの主要な効果の1つ：「ドミナントストーリーの無効化」

- ドミナントストーリー：ある状況を支配する物語。硬直化を招く
- オルタナティブストーリー：ドミナントストーリーに支配・抑圧された状況を打破するための新たなストーリー

## 「防災小説」によって生徒に起きた変化のモデル



## 「防災小説」に見る、防災を通じた教育



## 5. 教員研修事例

### 埼玉県安全教育担当者のための防災ナラティブ（首都直下地震を想定）

2020年5月13日午前11時24分、さいたま市直下を震源とする、マグニチュード7.3の地震が発生。最大震度6強、埼玉県および東京都の全域で震度6弱から5強の揺れを観測。強烈な揺れは10秒余り続き、揺れが終わった時には停電していた。

校内の火災発生状況を調べる。給食室OK。家庭科室・理科室の使用なし。ガスは自動的に停止とのこと。一部のスプリンクラーが誤作動し、水浸しになっている箇所があるものの、幸い子供たちには影響なし。火災発生がないため、教室内点呼ののちそのまま教室にとどまっていて欲しい。しかし停電のため校内放送が使えず、各担任と連絡が取れない。

余震が絶え間なく続いている。今度のは大きい！低学年教室から泣き声が響く。つられたのか、他教室からも泣き声や叫び声が聞こえてくる。

誰だ？校庭に出ているのは！・・・なんていうことだ！あの子たちはさっきの余震を、危険がいっぱいの昇降口で迎えたのか。校庭に出ているクラスを見て、他のクラスも次々と校庭に向かい始めている。また余震だ！机で身を守れない廊下や階段、昇降口を抜けて、なぜ校庭に出ようとするのか。

校庭に子供たちを座させたまま、教員が集まって会議を行う。ラジオの情報をみなが聞く。これからどうするか。

校庭にいる1年生から「先生トイレ...」との声が聞こえてくる。担任はトイレに向かわせる。動転していると思えない。余震が起きたらどうするんだ？！すぐに付き添うように伝える。それを見て他の子供達が一斉に走っていく。いや、待て。断水しているのだ。1、2回なら流せるだろうが、この人数では無理だ。トイレの設営！

ラジオからは、さいたま市直下を震源とする首都直下地震が発生したことを伝えている。電車は止まり、復旧の目処はまったくたたない。保護者の多くが帰宅困難者となり、今日中の引き渡しは不可能だろう。こんなこと、今さらラジオで確認しなくても、とっくに想定して訓練してきたはずだ。

正門の人だかりはなんだ？？地域住民と保護者か。裏門からは既に人が入ってきている！何だって？！駅から人々がこちらに向かっている？！時間の問題だ、駅からどれほどの人がこちらに流れてくるか...

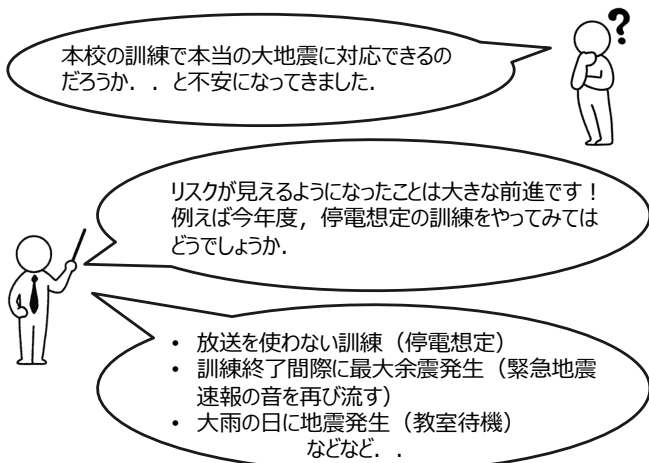
そして天気予報通り、当然といえば当然だが地震とはまったく無関係に、無情にも雨が降り始めた...



## 校内研修に取り入れよう！（安全教育は安全担当者だけのものではありません）

### 年度始めの校内研で

- ① 前ページのシミュレーションを皆で読む
- ② 自分のクラスで何が起こるか想像する（5分）
  - ・低学年なので誰かが泣くとつられそうで心配。
  - ・昇降口前のトロフィー展示ケースが割れる可能性がある。
  - ・特別支援学級はいつもの先生がいないときに不安が増大しそう…
  - ・…
- ③ 学年などのグループで共有、追加する（10分）
- ④ 全体で共有する（10分）
- ⑤ 上記を盛り込んで自分のクラスのシミュレーションを小説風に書く（15分）



### 埼玉県草加市の取り組み例

冒頭を自校バージョンに書きかえて、続きを校内研修で各教員が執筆。（2017年8月に実施）

2017年9月20日、水曜日、午前11時24分。3時間目の授業を行っているとき突如、下から突き上げるような強い揺れを感じた。これは後で分かることであるが、さいたま市を震源とするM7.3、最大震度6強、草加市内は震度5強の直下型地震である。強烈な揺れは10秒あまり続き、揺れが終わったときには電灯が消えていた。停電であろう。子供たちにケガはなし。ほっと一安心するが、子供たちの表情は不安に満ちている。しくしく泣いている子もいる。

校内放送が入る。時折、声が途切れ、今にも切れそうだ。校内で火災の発生はなし。2階の1年生と3年生の教室をつなぐ渡り廊下のガラスが割れて飛散しているとのこと。ということは、3階も同様か。放送の音が「次に…」と言ったところで耳をつんざくようないやな音がした後、途絶えてしまった。少しの間目を澄ませますが放送が再開するようすはない。地震の影響で断線してしまったのか？

---- 続きを各自で執筆 ----

### 学校保健安全法 第二十九条2

「校長は、危険等発生時対処要領の職員に対する周知、訓練の実施その他の危険等発生時において職員が適切に対処するために必要な措置を講ずるものとする。」

もしかして、こんな時代遅れな訓練やっていませんか？！



## 先生が指示してアクション？

- ✓ 「地震です。机の下に入りましょう」・・・？
- ✓ 立っている先生より先に、座っている子供たちが揺れに気づきます。
- ✓ そもそも強い揺れでは話すこともできません。



## 校庭にいるなら中央でしゃがむ？

- ✓ 校庭にいる時に地震が発生したら、真ん中に集まってしゃがむ？
- ✓ 強い揺れの渦中に移動するのはほとんど不可能です。



## 校庭集合を校内放送？

- ✓ 停電でも校内放送は使えますか？
- ✓ 耐震性のある校舎を出て、わざわざ校庭に集合する理由は何か？



## 訓練の評価は集合までの時間？

- ✓ 「揺れから命を守る」部分の振り返りは？

何かひとつでも変えてみましょう いきなり難しいことをする必要はありません

### 例1. 停電して放送が使えないパターン

- 教職員間で事前に、誰がどのように情報伝達するかを決め、課題や不安点を出す。
- 事前に生徒に伝える。  
「今日の訓練では停電して放送が使えない想定です。おそらくXX先生かXX先生が走って知らせに来てくれるので、それまで静かに待ちます。本当の地震なら、待つ間にもどんどん余震が起きるから、今のうちに危険を確認しましょう。」
- 実施後は教職員間・クラスで振り返りをする。

### 例2. 校庭から校舎に戻る時に余震が発生するパターン

- 抜き打ちでなくても構わない。
- (校長訓示のときなどに) 生徒たちに、「このあと、教室に戻るどこかのタイミングで余震が発生します。廊下だったらどうしますか？昇降口にはどんな危険がありますか？『落ちてこない・倒れてこない・移動してこない』の3つの『ない』をポイントに、各自で自分の身を守りなさい」など予告する。
- 余震の発生には、緊急地震速報の報知音を活用する。

### 訓練実施レポートの活用例：

1. 訓練のたびに、教職員全員に配布する。
2. 訓練実施前に「訓練で想定する状況」は職員室で一緒に（一斉に）記入する。
3. 訓練が終了したら「訓練実施後の記入欄」を各自に記入してもらい、共有する。

## 避難訓練実施レポート

| 学校名 | 記入者名 | 記入日 |
|-----|------|-----|
|     |      |     |

| 訓練で想定する状況     |                                                  |
|---------------|--------------------------------------------------|
| <b>実施予定日時</b> | 年 月 日 ( ) 時 分 ~ 時 分                              |
| <b>設定時間</b>   | 授業中・休憩中・給食中・掃除中・始業前・放課後・部活中・<br>登校中・下校中・その他 ( )  |
| <b>設定場所</b>   | 普通教室・特別教室 ( ) ・校庭・体育館・通学路・<br>移動先 ( )            |
| <b>設定状況</b>   | 停電・大雨・行方不明者発生・けが人発生・管理職不在・<br>在校人数不明・移動先・その他 ( ) |
| <b>教職員の動き</b> |                                                  |

| 訓練実施後の記入欄                            |                     |
|--------------------------------------|---------------------|
| <b>実施日時</b>                          | 年 月 日 ( ) 時 分 ~ 時 分 |
| <b>訓練の実際</b><br>想定していたこととの相違点        |                     |
| <b>ほしい支援</b><br>どのような支援があれば改善できると思うか |                     |



## 避難訓練の具体案

避難訓練を計画する際に参考にしてください。

<資料>

『避難訓練の手引き』（東京都教育委員会）

[http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/school/document/safety/files/evacuation\\_drill\\_handbook/hinankunren.pdf](http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/school/document/safety/files/evacuation_drill_handbook/hinankunren.pdf)

| 設定時間／場面                                                                                     | 設定状況                                                                                                                                      | 参照                         |
|---------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中</li> <li>・休憩／掃除中</li> <li>・部活動中</li> </ul>      | <p><b>【停電】</b><br/>                     強烈な揺れがおさまり、放送での指示を待つが連絡がない。しばらく待った後に、各担任（もしくは教頭など別の通知者）が「停電で放送が入らない！」と児童生徒に通知。</p>                |                            |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中</li> <li>・休憩／掃除中</li> <li>・始業前／放課後</li> </ul>   | <p><b>【大雨】</b><br/>                     大雨の日の地震発生で校庭に集合できない。教室待機中も余震が発生。保護者への引き渡しも教室にて行う。</p>                                             | 手引き例 9<br>(p.14)<br>液状化を参照 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・休憩／掃除中</li> </ul>                                   | <p><b>【行方不明者発生】</b><br/>                     昼休み中に緊急地震速報。放送あるいは教員の指示で校庭へ避難を行うが、点呼により行方不明者がいることが発覚。教員は本部の指示に従い、それぞれの分担に分かれて対応。</p>         | 手引き例 3<br>(p.8)            |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・下校中</li> </ul>                                      | <p><b>【下校して5分後に地震、学校に引き返す】</b><br/>                     校門を出て5分した場所で地震が発生。児童生徒は身の安全を確保したあと、学校へ引き返す。教員は校庭で児童生徒を迎え、点呼をとる。安全な場所に児童生徒を誘導。</p> | 手引き例 4<br>(p.9)            |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝練時間中</li> <li>・放課後部活動中</li> <li>・休日部活動中</li> </ul> | <p><b>【登校人員不明／管理職不在】</b><br/>                     朝練や放課後部活動、あるいは他校との練習試合中などに地震が発生。その場にいる人員数の把握や行方不明者の有無の確認が困難。管理職も不在。</p>                 | 手引き例 7<br>(p.8)            |
|                                                                                             | 他にも、津波、火災発生、修学旅行中の発災、等。                                                                                                                   |                            |

おさない かけない しべらない もどらない



# ※ 訓練実施レポートの記入例

※ コピーして使用のこと

## 避難訓練実施レポート

| 学校名   | 記入者名  | 記入日           |
|-------|-------|---------------|
| XX中学校 | 訓練 太郎 | 2018年9月5日 (水) |

| 訓練で想定する状況 |                                                                                                                                                                    |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施予定日時    | 2018年 9月 5日 (水) 14時 20分 ~ 14時 50分                                                                                                                                  |
| 設定時間      | 授業中・休憩中・給食中・掃除中・始業前・放課後・部活中・登校中・下校中・その他 ( )                                                                                                                        |
| 設定場所      | 普通教室・特別教室 ( )・校庭・体育館・通学路・移動先 ( )                                                                                                                                   |
| 設定状況      | 停電・大雨・行方不明者発生・けが人発生・管理職不在・在校人数不明・移動先・その他 ( )                                                                                                                       |
| 教職員の動き    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 停電で放送が使えないため、教頭が各教室をまわる</li> <li>・ 学年ごとに教員が廊下で話し合い、意思決定する</li> <li>・ 教室内待機か、校庭避難かの判断が、放送無しでどのくらいかかるのかを意識して実施する</li> </ul> |

| 訓練実施後の記入欄                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日時                          | 2018年 9月 5日 (水) 14時 20分 ~ 15時 00分                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 訓練の実際<br>想定していたこととの相違点        | <p>自分自身：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指示を待っている時間が想像以上に長く感じられ、重い沈黙が教室に流れたものの、生徒たちに言葉をかけられなかった。本当に地震だったらもっと不安だろう。</li> </ul> <p>生徒：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員が教室を出ると騒がしくなったため、教員間の話し合いが進まなかった。</li> </ul> <p>教職員：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分のクラスの状況（けが人の有無、生徒の精神状態）の把握をまったくせずに、単に廊下に出てきただけの人もいた。</li> </ul> |
| ほしい支援<br>どのような支援があれば改善できると思うか | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導案的なものが欲しい。</li> <li>・ 他校の事例を知りたい。</li> <li>・ トランシーバーが欲しい。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                      |



#### 4 埼玉県推進委員会委員及び学校安全アドバイザー等一覧

(敬称省略)

##### 【学校安全アドバイザー】

|                     |       |
|---------------------|-------|
| 埼玉県立大学健康開発学科教授      | 高橋 宏至 |
| 慶應義塾大学環境情報学部准教授     | 大木 聖子 |
| 埼玉県警察本部交通部交通総務課課長補佐 | 伊藤 智章 |
| 気象庁熊谷地方气象台気象情報官     | 中村 佳之 |
| 気象庁熊谷地方气象台地震津波防災官   | 田中 智巳 |

##### 【推進委員】

|                                |        |
|--------------------------------|--------|
| 公益財団法人埼玉県消防協会常務理事兼事務局長         | 小竹 清司  |
| 気象庁熊谷地方气象台次長                   | 由比 栄造  |
| 埼玉県教育局県立学校部保健体育課長              | 伊藤 治也  |
| 春日部市立中野小学校長（埼玉県安全教育研究協議会会長）    | 木村 純   |
| 埼玉県立越谷南高等学校長（埼玉県高等学校安全教育研究会会長） | 山本 美苗  |
| 埼玉県教育局南部教育事務所教育支援担当指導主事        | 柳田 勇   |
| 埼玉県教育局西部教育事務所教育支援担当指導主事        | 栗原 智靖  |
| 埼玉県教育局北部教育事務所教育支援担当指導主事        | 阿久津 広真 |
| 埼玉県教育局東部教育事務所教育支援担当指導主事        | 瀬高 武夫  |
| 川越市教育委員会川越市教育センター研修担当指導主事      | 墨谷 悦史  |
| 三郷市教育委員会学校教育部指導課指導主事           | 加藤 雄大  |
| 県立寄居城北高等学校教諭                   | 宮下 秀男  |
| 県立久喜北陽高等学校教諭                   | 嶋田 幸紀  |
| 埼玉県危機管理防災部危機管理震災予防担当主幹         | 大橋 弘明  |

##### 【事務局】

|                                 |        |
|---------------------------------|--------|
| 埼玉県教育局県立学校部保健体育課主席指導主事          | 駒崎 弘匡  |
| 埼玉県教育局県立学校部保健体育課健康教育・学校安全担当主幹   | 増田 博成  |
| 埼玉県教育局県立学校部保健体育課健康教育・学校安全担当指導主事 | 村田 憲一郎 |
| 埼玉県教育局県立学校部保健体育課健康教育・学校安全担当指導主事 | 塚本 卓司  |
| 埼玉県教育局県立学校部保健体育課健康教育・学校安全担当指導主事 | 鎌田 聖治  |